

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度 第 4 回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	平成 30 年 1 月 29 日(月) 10:00~12:00
開 催 場 所	市庁舎高層棟 7 階 研修室
出 席 者 の 氏 名	田中充、毛利吉成、天野正博、秋元智子、内田勉、渋谷正則、 足立圭子、長谷川陽子、上田マリノ、坂根裕子、栗須菊香
欠 席 者 の 氏 名	高柳正行、葛西聡、佐々木渉、藤田由紀枝
説明者の職・氏名	
議 題	1 開会 2 分野別施策について ・ 施策と指標 ・ SDGs への貢献 3 地球温暖化対策実行計画・環境教育等に関する行動計画について 4 計画の推進について 5 その他
会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料 1 分野別施策と指標 ・ 資料 2 本計画に掲げる取組みの SDGs への貢献 ・ 資料 3 地球温暖化対策実行計画 ・ 資料 4 環境教育等に関する行動計画 ・ 資料 5 計画の推進 ・ 参考資料 環境に関するアンケート調査結果(補足資料) “地区 別クロス分析 “ ・ 当日配布 1 第 3 回環境審議会における分野別施策に対するご意 見と対応について ・ 当日配布 2 今後のスケジュール
担 当 部 課 名	環境クリーン部 部 長 越阪部 孝夫 環境クリーン部 次 長 大澤 稔 まちごとエコタウン企画担当参事 小高 大輔 環境政策課 課 長 大館 真哉 主 幹 安藤 善雄 主 査 増田 弥生 主 査 三浦 直子 主 事 溝越 弘倫 環境対策課 課 長 矢野 正和 みどり自然課 課 長 奥村 稔 資源循環推進課 課 長 池田 淳 環境クリーン部環境政策課 電話 04-2998-9133

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
安藤主幹	開会・あいさつ
会 長	<p>＜あいさつ＞</p> <p>出席者が全委員の過半数に達しているため、審議会規定により会議の成立を確認。 傍聴者はなし。</p>
事務局	<p>【議題 1 分野別施策について】</p> <p>・施策と指標</p> <p>＜資料 1 に基づいて説明＞</p>
会 長	<p>資料 1 は、全体の施策の体系を説明しており、柱は 5 つである。また、P2「横断的施策」の内容を見ると、分野別の縦割施策ではなく、5 つの施策を横断的に記載しており、中柱を 2 つ立てている。事務局から説明があったが、6 つの柱のそれぞれに対し、施策の進行管理をしていく訳である。その説明をしていただいた。どこからでも構わないので、ご意見を頂戴したい。</p> <p>私から 2 点。P2 横断的施策 A の「共に」は意図的に漢字にしているのか。ひらがなでも良いのではないか。</p> <p>もう 1 つは、4-2 生活環境対策の推進について、現在の 4-2 の位置づけが良いのか、あるいは大気、水、土壌に続けて 4-4 と 4-5 の間に入れる、または、4-5 の後に入れるという考え方もあるのではないか。</p>
委 員	<p>「善きふるさと」を「善」という漢字で記載しているが、意図はあるのか。「善」と言うと壮大な表現である。</p> <p>また、P4、1-1-1 温室効果ガスの小柱における施策について、③と⑥は似たような表現ではないか。③低炭素型ライフスタイルを推進するために、⑥COOL CHOICE を実施すると考えられるので、わざわざ 2 つ記載する必要はあるのか。</p> <p>P42、5-2-3 人と環境に配慮した都市空間の整備 について、ユニバーサルデザインを推進するといった記載が見られるが、所沢市</p>

	でも市街化が進んでいる中で、街並み景観の色や光などについても施策に加えておくべきではないか。
会 長	了解した。事務局から、回答をお願いしたい。
事務局	「善き」は市長のご意向を踏まえてのものであるが、確認する。「共に」は特にこだわってはいなかったが、全体を見て検討したい。 「4-2 生活環境対策の推進」の位置については、環境省の施策体系に倣ったものである。先生のご意見も踏まえ、検討したい。
会 長	「生活環境の推進」については、広い概念となるので、後ろでも良いだろう。
事務局	P4 について、地球温暖化防止活動に取り組んでおり、現在取り組んでいる内容を③に記載している。⑥は、環境省が現在新たに進めているクールチョイスに関する内容を記載している。 色彩のご意見について、現在も色彩規定を行っており、景観保全という内容で P32 に記載している。光害の規制については、現在無い状況である。
委 員	看板で、ライトや模様が変わるのは目に良くないという話を聞いている。看板について、施策の検討をいただきたい。
事務局	調べる。なお、生活光害については、埼玉県が生活環境の点から指導している。
会 長	看板などの点、P39 の 5-1-1-①について、5-1-2-①も踏まえて、記載を整理いただきたい。 気になった点として、5-2 「安心なまちづくり」という記載があるが、安心というともう少し広い概念で、精神的なやすらぎも含むものだと考える。「安心なまちづくり」が良いのか、「安全」か、あるいは「安心・安全」という表現が良いか。ご検討いただきたい。

委員	<p>今回の国会で適応法案が出ている。一般的には、対策が難しいが、市町村ごとに計画を策定する必要がでてくるため、将来を見据えた、表現も記載してほしい。なぜ市町村ごとに計画の策定が必要になるかという、市町村ごとに環境が違うため、一括の計画で対策することは難しいためである。所沢市として、どのような適応計画が望ましいか。将来見直すとすれば、2020年ごろになると思われる。「適応策について、意識した形で、体系的に考えることも将来必要である」といった文言を入れて行く方が、市民の理解も得やすいだろう。</p>
環境クリーン部 参事	<p>環境省から出向しているため、適応法案について補足させていただく。委員がおっしゃる通り、適応法案が提出され、3月上・中旬に閣議決定する予定である。今後自治体は、適応計画の策定について努力義務となる見込である。だが、適応法案の内容としては、適応計画に記載すべきことが書かれている訳ではなく、「国の適応計画を参考にして、計画を作成するように」という内容になる予定と聞いている。いずれにせよ、所沢市の環境基本計画においても、適応計画を見据えた形で体系づくりをすることは大切だと感じている。</p>
会長	<p>委員の意見を踏まえ、今後、市が適応計画を作ることを見据え、充実化を図った方が良い。リード文に記載する形で良いと考えている。県の計画など周辺の計画を参考として、作成すれば良いだろう。</p>
委員	<p>先日に環境講演会があったが、まったく知らなかった。Facebookも子育て中で見られない。情報に対して、受け身になっているので、メルマガで届けてもらえれば。子育てしているとそれが一番受け取りやすい。その点については、是非具体的に考えて頂きたい。所沢市ほっとメールで流していただいても良い。</p>
事務局	<p>市報では告知している。</p>
委員	<p>市報も見るようにしているが、漏れている部分もある。</p>
事務局	<p>了解した。</p>

委員	<p>家庭の温暖化対策についての施策が必要と以前申し上げたが、冬場のエネルギー使用に関する施策の記載が無い。クールビズについては記載されているが、冬の暖房にはエネルギー負荷が多いので、ウォームシェア、ウォームビズを検討いただきたい。P4について、民生家庭部門に対する対策も必要だが、民生業務部門も排出量が多くなっている。事業者支援も重要になってくると思われる。低炭素化などを推進すると記載されているが、事業所の省エネに関する支援、特に中小事業所に対する支援もしてほしい。例えば、デマンドレスポンスに対する支援などをしてほしい。</p>
委員	<p>今の話をお聞きして、商工会議所としてすぐに来ることは電球のLED化などあるが、自動車について。これから電気自動車の社用車を利用する際に、グリーンステッカーのようなものを用意いただくような取り組みができないか。そのような考え方を、どこかに記載していただければ。</p>
会長	<p>取組みを行う事業者へ、インセンティブを与える視点で話をいただいた。</p>
委員	<p>言葉の使い方について。P13、2-2-1の⑤に「平地林」とあるが、「雑木林」にした方がよい。他の文章とも整合するし、平地林でなくても、例えば街路樹の落ち葉も使用していることもあるだろう。</p> <p>P15、2-3「みどりの保全」のリード文には「武蔵野の雑木林、～などの豊かなみどりが存在し」という文章があるが、2-3-1のリード文では雑木林が抜けている。長い文章となることを懸念して抜いたのであれば、表現を工夫していただきたい。</p> <p>2-3-1の①では首都圏近郊緑地保全法だけではなく、特別緑地の保全についても触れていただくと、所沢では2つも施策をやっているというアピールが出来る。</p> <p>P16について、2-3-3「河川・湿地の保全」という記載があるが、河川ではなく、水辺の保全のほうが良いかもしれない。見出しは「河川」だが、リード文は「水辺」と記載されている。統一して分かりやすくしたほうが良い。同じことを意図しているが、言い回しで変わってしまう。検討いただきたい。</p>

委員	P16について、水辺が良いのか、水環境というキーワードが良いのか。整合性を取って検討していただきたい。
事務局	現状は、みどりの基本計画の文言と整合を取っている。
委員	<p>P21 3-1-1-⑤について、「小さな頃から～」と記載されているが、「幼いころから」という表現の方が分かりやすいのではないかな。</p> <p>また、⑤の後半部に記載されている、小学生用副読本についてだが、子ども向けに創作した形で作られたものの方が良いのではないかな。</p> <p>リデュース、リユースの記載について、廃油が抜けている。この分野ではいろいろな発展もある。廃油天ぷら油といった文言を挿入し、エネルギーとして再生利用が可能であることを記載していただけるとありがたい。</p>
会長	他の委員のご意見をお聞きしたい。「小さい」というより、「幼少」という意味になるかな。
委員	「小さい」というより、「幼少」にしたほうが良いのではないかな。
委員	今の話について、私の次男が幼稚園児であるが、リサイクルは知っている。幼稚園の先生からマークを教えてもらっているようで、ペットボトルについているマークを見て、リサイクルなので捨てないように、と親である私が子どもから指摘を受ける。現時点で4歳の幼稚園児だが、リサイクルについて分かっている。生活していてこちらも大変でもあるが、子どもから注意されると自分も気をつけないといけないという気持ちになる。
会長	意見を踏まえ、文言を検討いただきたい。
委員	小学生用副読本について、これから新たに作成するのか。作られているものをバージョンアップするのか。
事務局	ごみに関する副読本や、環境全般に関する副読本がある。毎年バージョンアップしながら作成している。習う時期が異なるため、

	<p>対象年齢に応じて使用する副読本は異なる。</p>
<p>委員</p>	<p>所沢市の公共下水道は、どのくらい普及しているのか。また合流式か、分流式なのか。</p>
	<p>P32に浄化槽と表現があるが、合併処理浄化槽か、単独処理浄化槽か。今後適応策を進めるにあたり、豪雨で下水道管があふれた際に合流では問題がある。適応と絡めながら、インフラ対策をする必要がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>合流式か分流式かについて、分流式については、現在敷設しているものは全て分流式だが、一部に過去敷設したもので合流式が残っている。それらについては現在、分流式への転換を進めているところである。</p>
<p>資源循環推進課長</p>	<p>本市の下水道普及率は93%となっている。 浄化槽については、ご承知の通り、現在の法律では合併処理浄化槽でないと設置出来ないし、単独処理浄化槽は製造もされていない。4-3-1 ③のように「設置」という表現があれば、必ず合併処理浄化槽ということになる。ただし、例えば④のように「浄化槽の点検」、「適切な使用」ということであれば、単独処理浄化槽もまだ使用されているため、合併・単独の両方を指すことになる。「単独・合併」といった表現を入れた方が良いか、このままで良いかについては事務局と協議しつつ検討していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>単独処理浄化槽からの転換を進める取組はあるのか。合併への転換を進める施策は必要ではないか。大雨が頻発しているので、防災と一緒に、対策を含め適応策を検討することは大切である。</p>
<p>会長</p>	<p>今の委員の話では、単独処理浄化槽があれば、合併処理浄化槽に転換を進めるような施策が必要ではないかという話だった。合併処理浄化槽について、明記した方が良さだろう。</p>
<p>副会長</p>	<p>補足させていただく。埼玉県は、個別訪問をするなど、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を推進していたこともある。</p>

会 長	<p>若干、状況は変わっていると思われる。対策としてどのようなことをすれば良いかというのが委員の意見。それを参考にしていただきたい。</p> <p>議題も多いため、次に進めることとする。資料 1 についてはここまでとし、資料 2 に進める。</p> <p>【議題 1 分野別施策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs への貢献
事務局	<資料 1 に基づいて説明>
委 員	<p>まず実際に何を指すかという点について。資料では基本計画で SDGs が動いているが、SDGs の方から基本計画にも組み込めるものが何かあるのではないか。例えば P9 のゴール 11 は、安心する社会をつくろうということであり、ターゲット 11.7 で女性、子供、高齢者や障害者を含めて、共生する形となるような交流スペースを作ろうということが記載されている。所沢の地理条件としてまとまった緑はあるが、近隣にそういったスペースを作るなどが考えられる。そういう意味で少し見ていただくと環境への効果が大きくなるのではないかと思う。</p>
会 長	<p>委員のご指摘について、SDGs の発想から基本計画の施策を組み直すような視点の話をいただいた。再整理してみると良いだろう。再整理をしてみて、このままで良いということであればそれも良いかもしれない。</p> <p>他にご意見等がなければ、ここまでとし、議事（2）地球温暖化対策実行計画及び環境教育等に関する行動計画へと進める。</p> <p>【議題 2 地球温暖化対策実行計画・環境教育等に関する行動計画について】</p>
事務局	<資料 3 に基づいて説明>
委 員	<p>削減目標が 22.9%というのは大変な目標のように思えるが、その中の P4 で削減ポテンシャルに関する記載がある。様々な対策をすればこれだけ減るという形になっているが、森林吸収についての内容が入っていない。森林吸収分は削減ポテンシャルのほうに</p>

	<p>は入らないのか、お聞きしたい。</p>
事務局	<p>今まで森林吸収分は見ていなかったところだが、委員ご指摘のように入れたほうが良いと思うので、確認して精査する。</p>
委員	<p>削減目標に関する、26%のうち2.5%について、農地と森林への吸収を見込んでいる。所沢の場合、森林については非常に安定しており、吸収量がこれから増えていくかということそうでもない。地域としての目標としては、削減ポテンシャルはこれで良いような気がする。</p>
委員	<p>環境基本計画の素案の中に、「吸収源対策をします」という文言は記載されているので、入れたほうが良いのではないかと、いうところから質問させていただいた。</p>
委員	<p>違う発想からになるが、運輸部門について。所沢の高齢者の人たちが増えてきて一番困っているのは生活の「足」であると思われる。ところが「ところバス」は一日に何本かしか走ってなく、本数が少ない。公共交通を使った方が良いということは当たり前のことで、本数があれば皆さんに乗っていただけると思っている。環境基本計画のなかで推し進めていただけないか。本数を10倍とまでは言わないが、せめて5倍くらい増やさないとバスに乗る方もいないのではないかと。それによって交通量も減り、皆さんが使う最終的なエネルギーが減り、二酸化炭素も減るのではないかと。また検討をいただければありがたい。</p>
会長	<p>P3の削減必要量の目安について、表にも合計値を入れることが必要ではないか。また、上の15.8万トンと整合が取れているのであればその旨も記載した方が良いでしょう。</p> <p>また、20.2万トンというのは、現状のままでいくと減っていく数値ということか。</p>
事務局	<p>これまでの推移に人口数、世帯数といった各活動量を入れて、推計している。それでも減りきらない部分を取組による削減が必要な量としている。</p>

委員	環境基本計画の取組を進めれば減る量ということか。
会長	人口が減るため、温室効果ガスについても減っていくということになるのか。
事務局	目標年度で見ると、人口は減少している。
委員	今の説明だと過去のトレンドをそのまま伸ばすということで良いか。このトレンドは、実は再生可能エネルギーが入ったトレンドになっている。一方、ここでの削減というのはエネルギーの使用量を減らしていくことで自然に減少傾向になる、ということになっている。そのため、そこに再生可能エネルギーをより沢山取り込むということがあると計算上変わってくる。エネルギーの需要が今のままで変わらないという前提をここに書いておいたほうが後で困らないと思う。
会長	現状趨勢の中に過去の取組が入っているのではないか。現状趨勢が、何の環境対策も打たない状態で人口減少等の要因のみでこれだけ減少する、という話ならわかりやすいが、現状趨勢に省エネ機器の買い替えなどが入っているとしたら、今後の取組とダブルカウントになってしまうのではないかと感じてしまうが、そのあたりは大丈夫か。
委員	今、言われたとおり、BAUなので今の努力について再生可能エネルギー、省エネ機器による取組分も入っていると思われる。それにさらに追加という意味にとった方が良いのではないか。
会長	「今まで以上に進めていく」という意味合いか。数値についての説明などをもう少し分かりやすくしていただきたい。
委員	事務事業編で具体的な取組が出てくると思われるが、現時点で実行計画と環境基本計画で同じ言葉を使っている。項目は一緒でも表現は変えたほうが良いのではないか。実行計画は、「実行に移すための表現」にしたほうが良いと思う。

<p>委員</p>	<p>P3 について、民生家庭部門の削減目標の割合が高くなっているが、私はこれから何をしたらいいのか、何を具体的に行動したら環境に貢献したといえるのかをわかりやすく記載してもらえると良い。例えばチェック項目をつけるなど。自分の家では、全てLED化し、エアコンも変えている。民生家庭部門の削減量 34.7%を達成するために、もっとやらなければならないことがよくわかったので、それに対しどれだけできたかという喜びを市民に与えてもらえると、施策もより生きてくると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>他にご意見がなければ、再度事務局にて整理をしていただく形としたい。環境教育の部分について、事務局に説明いただく。</p>
<p>事務局</p>	<p><資料4に基づき、環境教育等に関する行動計画について説明></p>
<p>委員</p>	<p>環境教育促進法の中では「場の設定」というものがある。場の設定をどのように提供していくのかということが大切である。</p> <p>また、事業者もこの環境教育の推進に関わっていくことになる。三者の連携とは書いてあるが、事業者も積極的に環境教育、職員研修、ボランティアなどを提供してもらうことや、一緒になって指導・協働ですることなど、いろいろあると思う。現在は、事業者に関する表現が少ないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ご意見のあった事業者として発言する。私は商工会議所の青年部で教育活動を行っている。環境教育担当として、「小・中学校において、身近なみどりの活用により、環境教育を推進します」という記載があるが、農商工連携を通して、地域と教育をうまく結びつけるといいものが生まれるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、副読本が作成されているというお話だった。校長先生もいらっしゃるので、お伺いしてみたい。環境学習について謳われているが、非常にタイトな授業環境の中でどの程度副読本を活用されているのかというのと、それからもう1つは、どのように伝えれば子供たちに効果的に授業できるのか、副読本の活用の仕方を逆に教師の皆さんにお伝えすること、講師養成というところも必要なのではないかなと思う。配って終わりでは全然意味がない。よく学校の先生から、たくさん資料が来るが、全然見ずにそ</p>

<p>委員</p>	<p>のままになってしまうものがあるということを言われる。他の教育が沢山ある中で、狙った効果が得られるような施策が必要だと思う。</p> <p>環境教育は、この時間にやると決まっているものではなく、すべての授業の中で織り込んでいくものだと思う。現在、所沢では牛乳パックの回収を進めているので、そのことを朝礼で取り上げたり学校だよりに出したりしながら、自分達の行動がどういうことに繋がるのかということと話したりしている。副読本を使って本格的にやるということはなかなか難しいとは思っている。ただ、子供たちが行動していることが必ず地球を救うことに繋がるという話について、先生たち自身も認識していく必要があるとは思っている。つねに管理職はそうしたことを織り込みながら子供たちに授業をしていくことが必要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>学校の先生に講演させていただいたことがあるが、先生はかなりお忙しい。エコな生活は多少ゆとりが無いと出来ない。学校の先生への研修・意識付けをしていただき、当初の理念を思い出していただきたい。先生自身の暮らしが荒れていたとしたら子供たちに口で言っても伝わらないというところがあると思う。</p> <p>所沢市でワットアワーメーターをお借りして、消費電力を調べた。実際の家電製品を使用し、消費電力を数字で読ませると子どもは驚く。見えなかったものが数字で見えるようになると、使い方を考え、工夫するようになる。しかし所沢市の職員に聞いたが、利用されていない、そもそも利用出来るということが知られていないかもしれない。そういったものを使った研修をしていくのも良いと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>委員の話聞いて感じたが、事業者の話は必要だと思う。温暖化計画もそうだが、この分野特有の課題に踏み込んでいるので、環境基本計画にも参加者数など指数があるが、行動計画についても、具体的な目標値を設定したらどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>【議題3 計画の推進について】 <資料5に基づき説明></p>

<p>会 長</p>	<p>庁内会議、及びPDCA サイクルについて記載されている。 ご意見がなければ、次へ移りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>【議題 4 その他】 <参考資料に基づき、市民アンケートの地区別クロス分析について説明。あわせて、当日配布 2 に基づき、次回会議の日程のご案内></p>
<p>会 長</p>	<p>所沢の市域は広いため、地域別にみると見えてくるものもある。施策を立て、地区別の取組を進めるにあたり、アンケート結果についても参考にしてほしい。</p>
<p>安藤主幹</p>	<p><まとめ></p> <p>閉会</p>